

小学校の プログラミング教育は



林 敏博 議員

令和2年から小学校において、プログラミング教育が必修になる。

町や村の多くには、プログラミング教育の趣旨や目的、基本的な考え方の情報が不足しているなどの課題が上がっている。

県の教育委員会は、プログラミング教育のために、教員向けの研修会の開催等の取り組みを進めている。

プログラミング教育に対する町の基本方針は。

教育長

小学校5年生を中心としたカリキュラムを作成し、総合の授業時間を活用して、導入から帰結までのプログラミング的思考（思考・判断力・表現力）の構成に向けた授業を実践していく。

県の研修講座を受講した教諭は、受講していない教諭にどのような指導をしているか。

教育長

情報担当教諭を中心としたプログラミング教育のカリキュラムの作成と、夏休みに各小学校で教諭向けの研修会を実施した。

作成したカリキュラムに沿った授業は行ったのか。

教育長

6月に公開授業を八幡小学校の5・6年生で実施し、9月末から12月にかけて、各小学校の5・6年生に授業を実施する計画である。



プログラミング教育の授業

プログラミング教育に使用する教材等の準備は進んでいるのか。

教育長

パソコン・タブレットは、既存の物を活用し、今年度のプログラミング教育用の外部機器は、コンピューターが制御する歩行者用信号機の制御機器をレンタルしている。

来年度以降については、他の市町との状況を見ながら、学習準備に負担が少ないものを選択していく。



歩行者用信号機の制御機器

要望

最初の取りつきで嫌いになると、後々全部嫌いになってしまつので、児童がプログラミングを好きになる教育をお願いします。

災害時の備蓄 食料品について

池田町は、備蓄食料品整備事業計画に基づいてボトル入りの保存水とアルファ米を備蓄している。

町内には、0歳児が115人、1歳児が140人いますが、この乳幼児が震災被害者になった時に対応出来るように乳児用の備蓄食料品を追加してはどうか。

たとえば、乳児用の液体ミルク・粉ミルクを。

町長

県内の21市町村が粉ミルクを備蓄しているが、現在のところ、町では粉ミルクを備蓄していない。液体ミルクは、保存期間の問題もあり、また、同時に費用もかかるので、備蓄は慎重に考えていく。



市販されている液体ミルク